

第四期周辺整備協議会 とりまとめについて

2016.9.7作業部会

塩澤誠一郎

1

第三期報告書 今後の方向性

・ 基本的考え方

- ・ 新クリーンセンター施設・周辺整備は、過去の経緯を踏まえて現在を見つめ、未来を見据えた上で、その方向性を定めなければならない。

・ 継承・発展

- ・ 市民参加による現施設建設用地の選定、住民主体による施設周辺まちづくりの検討によって、周辺住民と市の信頼関係を育み、現在の運営協議会に続く協働の歴史を築いてきた。
- ・ この点は、今後も継承し、さらに全市民的な広がりへと発展させていくべきことである。

・ 課題解決に向け努力

- ・ すべての市民が必要としながら、近くにあつてほしくない施設というマイナスイメージ
- ・ ごみを減量化し、クリーンセンターの焼却量を減らして環境への負荷を低減していくことへの全市民的理解の醸成不足
- ・ 市役所北エリアにある軟式野球場、テニスコート、緑町コミュニティセンターの利用とクリーンセンターのごみ焼却の現状への相互理解の不足
- ・ といった課題については、解決に向け、今後も努力し続けなければならない。

2

第三期報告書 施設・周辺整備の方針

- ・新クリーンセンター施設・周辺整備においては、
- ・「**低炭素社会のモデルの実現**」
- ・「**“地域力”の向上**」
- ・「**まちづくりとの連携**」
- ・を柱とする第一期協議会の方針に沿って事業を進める。具体的な事業のあり方はすべてこの方針に照らして具体化していく。



第三期報告書 エコプラザ（仮称）の方向性

- ・市民が出したごみを焼却する施設の隣に、**現施設の一部を再利用して整備することに重要な意義**がある。
- ・プラットフォームの空間を生かしたこれまでの実践により、**創造的な方法で、多くの市民が関わりを持ち、そのことが市民の意識を変えていく**手応えを感じることができた。したがって、今後もこの方向性を追求していく。
- ・新クリーンセンターと一体で、ごみの減量化、非焼却処理、広域処理、分散処理の可能性を追求し、**さらなる焼却施設、焼却場の規模縮小への道筋を見いだしていく**。

第三期報告書 周辺整備の方向性

- ・ 昭和59年から続くテーマ
- ・ より多くの市民が気軽に利用できる場所にする。
- ・ 周辺住民に配慮して緑を増やし、ごみ焼却施設というマイナスイメージを可能な限り取り除く。
- ・ 加えて
- ・ 市役所北エリアを利用する市民が、エコプラザ（仮称）も含めて、新クリーンセンターの敷地を気軽に訪れ、**ごみの減量化、低炭素社会づくりへの理解が進み、市民間の相互理解が図られるような空間づくりのあり方、空間活用のあり方**に、あらゆる可能性を追求していく。
- ・ これまで出されたすべての意見を踏まえて、施設・周辺整備の方針に照らして、具体的な検討を行っていく。

第四期とりまとめの 基本的考え方

第四期とりまとめの内容と構成

- ・ 施設・周辺整備事業全体の目標と基本方針を示す
- ・ 対象地域を示す
- ・ 個別事業の基本構想を示す
 - ・ エコセンター、エコプラザ、北エリア、周辺まちづくりに関係する事業
 - ・ ソフト、ハード両面
- ・ 概ねの事業実現期間を示す

目標を考える視点

- ・過去の経緯を踏まえて現在を見つめ、未来を見据えた上で、その方向性を定める。
- ・この事業の中で過去から続く課題を解決し、望ましい未来に向けて行動する。
- ・**将来を考えた事業の基本構想**にする。

- ・低炭素化など、我々の目標は短期間では実現できない。
- ・目標に向けた取り組み、目標を達成した後の地域を持続させていかなければならない。
- ・必然的に次世代に引き継ぐことを意識しなければならない。
- ・**長いスパンで考える。**

30年後

- ・クリーンセンターがあることで30年後、どうなっていてほしいか。という視点で検討する。

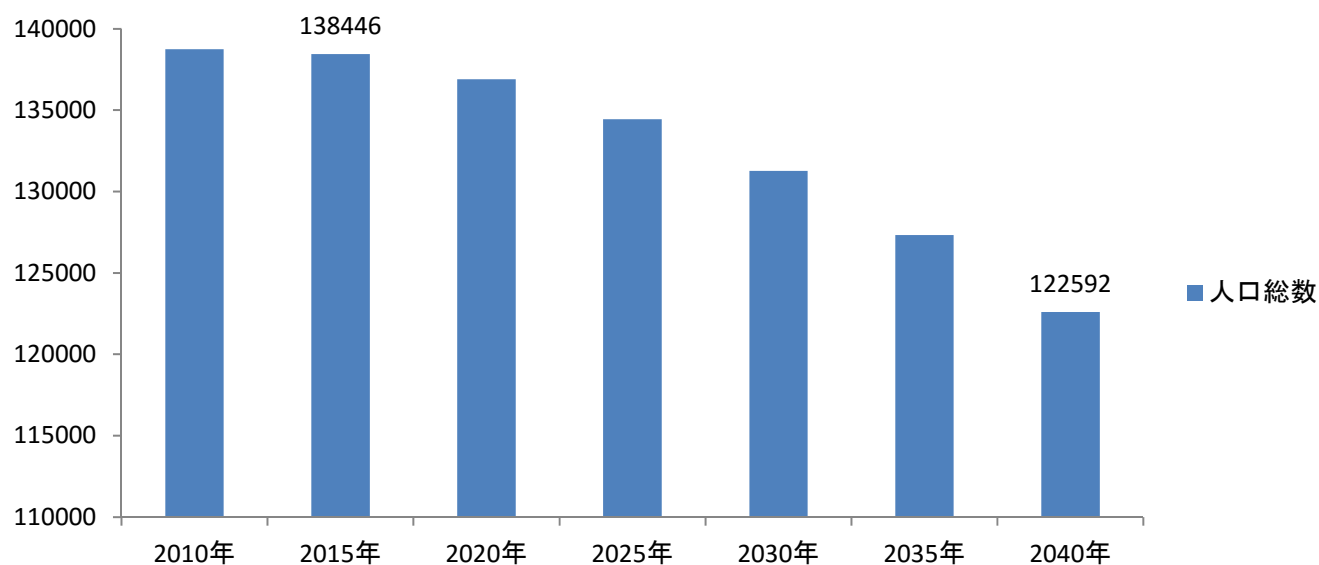
- ・なぜ30年後なのか？
 - ・稼働から概ね30年で建て替えに至った。
 - ・30年後に建て替えなりを検討する可能性がある。
 - ・建て替えをきっかけにどのような思いで施設周辺整備に向き合ったのかしっかりした考えを示し、残す。

- ・2016年→2046年 平成28年→平成58年

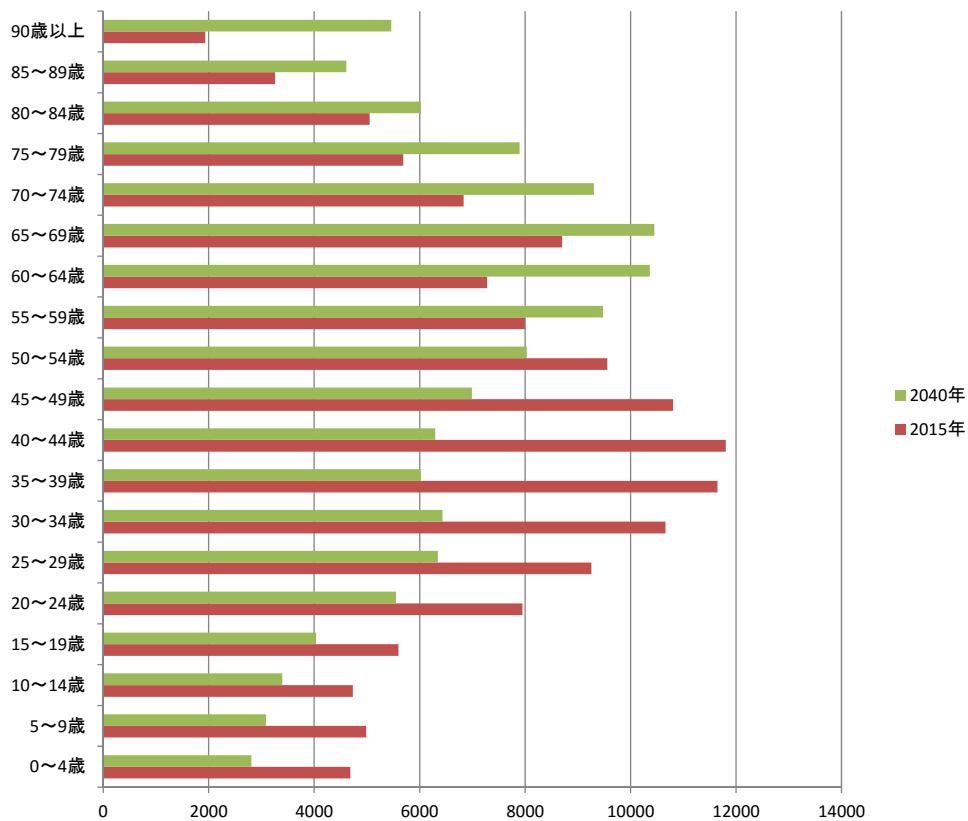
30年後の武蔵野市は？

11

人口



12



そういう状況の30年後でも大事にしたいことは？

- ・ 低炭素化、環境の視点
- ・ コミュニティの視点
- ・ まちづくりの視点

環境

- ・ 環境
- ・ 排出されるごみが減り、焼却量が現在の半分以下になっている
- ・ ところが現状の目標は今後10年で約500トン削減。現在比7%程度。無理！30年で21%。加速が必要。パリ協定 2100年排出0
- ・ 炭素排出量が現在の半分以下になる。
- ・ 焼却施設も半分稼動すれば十分になる。
- ・ ごみ焼却に使われていた予算は、減量化とともに、環境教育に使われていき、**市民の誰もが日常的に持続可能な環境に向けた行動を起こしている。**

コミュニティ

- ・ その行動は必然的に、環境問題に限らない地域課題に、**地域住民が自立的に課題解決に向けて取り組む力を身に付けている。**

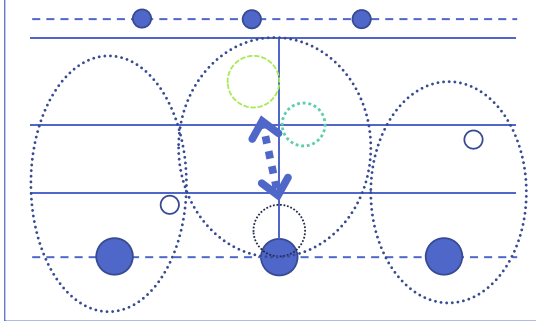
まちづくり

- ・ その行動は街並みの向上にも向けられ、暮らしている人はもちろんのこと、初めて訪れた人も心地よさを感じる。
- ・ あらゆる公共空間は、そうした市民のあらゆる活動を支える場として最適に活用されている。

- ・ このような30年後にするために、これから何をすべきか？
- ・ を考えたのが、この報告書（提言）である。
- ・ このように考えて計画し、行動したことを、30年後の市民がどのように評価するか。そのことを意識した報告書（提言）である。

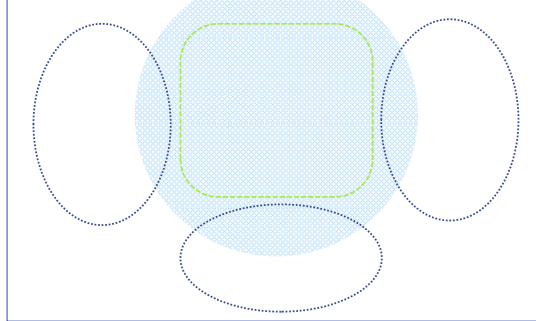
・新施設及び周辺地域の位置とその意味

- 広域から人が集まる場所、その重要性



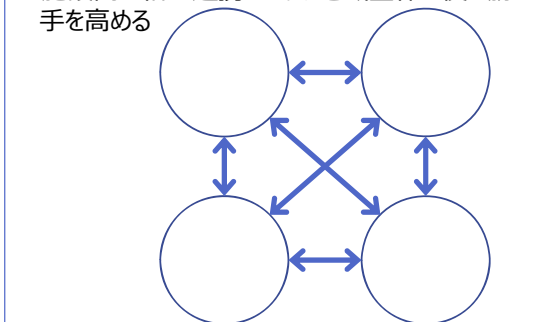
・北エリアと周囲の一体性

- 環境整備も運営も一体に捉えて行う



施設間の相互連携

- 施設間の相互連携により、地域全体の使い勝手を高める



個別方針

- 新施設の市民利用スペースのあり方
- エコプラザのあり方
- 北エリアのあり方
- 周辺整備のあり方

運営のあり方

- ・新施設・エコプラザ運営の評価
- ・北エリア連携調整